



ここにすれば



ええね

2017.12.10



いのちと平和と子どもたち
川口ぞうれっしゃ合唱団

川口ぞうHP <http://kawaguchizou.sakura.ne.jp>
メール kawaguchizou21@s8.dion.ne.jp
TEL 048-268-9256(荒木) 261-1714(栗山) 266-1242(柴山)

クリスマスソングが街のあちらこちらから聞こえてきました。人々も皆、心なしかソワソワ、ワクワク、バタバタそしてイライラ? 「暮れの日々、不機嫌に一利もなし」(朝日新聞/日曜に想う)「ほっ」とひとつ息を吐いて、せわしい年の瀬をたおやかに乗り切りたいですね。サンタさんには何をお願いしましょうか?

朝日新聞と毎日新聞に掲載されました

11月28日(火)の朝日新聞と毎日新聞にぞうれっしゃ合唱団が紹介されました。

掲載された記事のコピーがありますので、必要な方は1部お持ちください。川口ぞうのホームページにもアップする予定です。ホームページは、インターネットを開いて「川口ぞうれっしゃ」と検索するとすぐに出てきます。過去のコンサートや練習風景、新聞記事、こあ、チラシなども、ここから見たり印刷したりできます。また、先日開設したフェイスブックも更新していきますから、時々見ていただけるとうれしいです。ご覧になったら、「いいね!」をポチしてくださいね。よろしくお願いします。

荒木さんから、おすすめの1冊

前回の練習の後に借りてきた、1冊の本の話です。

浅田次郎の短篇集『獅子吼』(文芸春秋)

急いでいたこともあるけれど、もともと好きな作家だから、内容も確認せず、(通勤の行きかえりにいいかも)と軽い気持ちで借りたのですが…

冒頭的一篇が、本のタイトルにもなっている『獅子吼』でした。

読み始めて驚きました。

なんと、戦争中に動物たちが殺されるという、ぞうの作品とぴったり重なる話ではないですか!

しかも、「殺される立場の獅子^{ライオン}」が、一人称で誇り高く語っていくのです。

ドキドキしながら読み進めていきました。

動物たちに銃を向けざるをえなかった人たち、それを取り巻く人たちの描き方にも胸を打たれ…。

この人の作品には、戦争の愚かさ、平和への熱い思いが、じんわりと流れていて、読む者の心のひだに触れてくるんです。

小さい子ども達には難しいけれど、ぞうを歌う仲間には、他の短編も合わせて、ぜひ読んでもらいたいな。

きっと、歌にも何らかの変化が起こる、はず…

ぞうの練習の直後にぱっと手にした1冊が、ぞう列車とも深くつながる内容の小説だったとは! なんだか不思議な、どこかからのメッセージでもあるような想いを抱きながら、ジョン・レノンの命日そして太平洋戦争開戦の日の今日(8日)これを書いています。

風邪、インフルエンザ、流行り始めましたよ。手洗いうがいを忘れないでね。

今後の練習予定は、12月24日、1月14・28日、2月11日・25日です。

次回は、12月24日、クリスマスイブですよ。ここにすればあえるね♪

